



CQM(超短期経済予測モデル)

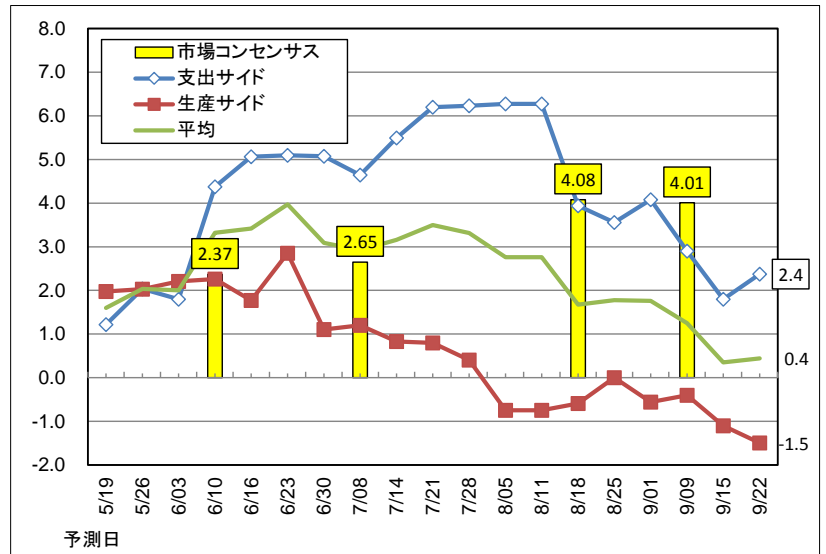
稲田義久 (APIR 数量経済分析センター長)
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail: inada-y@apir.or.jp

日本経済(週次)予測(2014年9月22日)

ポイント

- ▶今回更新されたデータは、民間企業設備、公的固定資本形成、純輸出及び雇業者報酬の予測値に影響を与える。
- ▶7月の公共工事(季節調整値)は前月比3カ月連続のプラス。結果、7-9月期の実質公的固定資本形成の予測値は先週から上方修正。
- ▶8月の輸出、輸入金額はいずれも前月比マイナス。7-9月期の実質輸出、輸入の予測値はともに下方修正されたが、輸入の修正幅が輸出のそれを上回ったため、同期の実質純輸出の予測値は先週から幾分上方修正された。
- ▶結果、今週の超短期モデルは、7-9月期の実質GDP成長率を前期比年率+2.4%と予測。先週から上方修正された。
- ▶7-9月期は、公的固定資本形成は堅調だが、民間消費、純輸出は弱く景気回復はもたつく。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2014年7-9月期(%, 前期比年率換算)



<公的固定資本形成は堅調だが、低調な民間消費、純輸出により、7-9月期の景気回復はもたつく>

先週(9/15-19)に更新されたデータは、8月の貿易統計、7月の毎月勤労統計(確報値)、全産業活動指数、建設総合統計及び景気動向指数(改訂値)である。これらのデータは、民間企業設備、公的固定資本形成、純輸出及び雇業者報酬の予測値に影響を与える。

7月の公共工事(季節調整値)は前月比+2.7%増加し3カ月連続のプラス。実績値は事前予測を上回ったため、7-9月期の実質公的固定資本形成の予測値は先週から上方修正された。

8月の貿易収支(通関ベース)は-9,485億円と26カ月連続の赤字となり、赤字幅は前年同月比-2.4%減少した。季節調整値は42カ月連続の赤字となったが、前月比-9.6%減少した。2カ月連続のマイナス。輸出、輸入金額(季節調整値)はいずれも前月比3カ月ぶりのマイナス。結果、7-9月期の実質輸出、輸入の予測値はともに先週から下方修正されたが、輸入の修正幅が輸出の修正幅を上回ったため、同期の実質純輸出の予測値は先週から幾分上方修正された。

結果、今週(9/22)の超短期モデル(支出サイド)は、7-9月期の実質GDP成長率を前期比+0.6%、同年率+2.4%と予測。先週の予測(+1.8%)から上方修正された。7-9月期は、公的固定資本形成は堅調だが、民間消費、純輸出は弱く景気回復はもたつく。

・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6485-7690